

続
エレ
ノア
伝説。

Ford Mustang Fastback

“**ELEANOR**”

by FUSION LUXURY MOTORS

映画『60セカンズ』公認コンプリートカーの心意気

映画のワンシーンが、リアルワールドで再現される。
1967 年式シェルビー・マスタング GT500、通称エレノア。
造り手側とランセンス契約を結んで製作されるという、
単なるレプリカではない、“本物を越えたレプリカ”は、
アメリカンビルダーの底力を感じさせる逸品だった。

Photos | 内藤敬仁 Takahito Naito Text | 中三川大地 Daichi Nakamigawa
問い合わせ | FUSION ASIA Tel.0480-48-5172 www.fusion-asia.jp





映画の劇用車をリアルワールドで再現する。当時の憧れを実際に手にするという、まるで甘酸っぱい青春時代を取り戻すような贅沢な遊びに没頭する人が後を絶たない。その代表例として、全米を中心とした世界中であらゆる世代に愛されてきたマッスルカーがいる。



1974年に公開された「パニシングin60」と、2000年にそのリメイク版として生まれた「60セカンズ」で、並み居る登場人物や、他の劇用車を押しつけて一躍ヒーローとなった1967年式シエルビー・マスタングGT500、通称エレノアである。ホットロッドデザイナーであるステイブ・スタンフォードがデザインし、チップ・フーズがシネマ・ヴィークル・サービスと組んで製作したものだ。その公開以来、エレノアというフィクションの産物をもとに、あらゆるビルダーやブライベーターが各々の解釈をもってレプリカを生み出してきた。ここ日本でも何台もの上陸が確認

されている。しかし、ここに現れたエレノアは、既存のレプリカとはひと味もふた味も違う。製作したフュージョン・モーター・カンパニーは「パニシングin60」のハリッキー監督のご遺族ほか、関係者と正式にライセンス契約を結んでいる。つまりは本物が認めたものであり、本物を越えたレプリカといえる。本物を越えた――。そう括る最大の理由は、きめ細かく高品質なフュージョンのモノ造りにある。劇用車と同じ67年式マスタングのフレームから丹念に興すのは、いかにもアメリカンビルダーらしい。フレームワークはもとより、アルミ削り出しの質感を残したビレットパーツの数々は、見ているだけでうっとりとする。当時の佇まいを残しつつも、アルカンタラ巻きのロールバーや、レカロシートの挿入、あるいはさりげなくラゲッジに内包されたオーディオ機器など、随所に現代化が見てとれる。なお、エンジンやミッション、サスペンションは複数種が用意され、すべて顧客からのオーダーで選ばれるという。

この個体には、アメリカの有名チューナーであるラウシュ製の427IRN81STACKが搭載されていた。最高出力560ps、最大トルク74・7kg・mを発揮する。約7ℓもの熱量を持つためか、腹の奥に響く

（フュージョン・アジア）のサポート体制も手伝って、60年代の姿形を気兼ねなく現在の路上に連れ出すことができそうだ。ちなみにフュージョン・アジアは、AJITTOとして国産車チューニングを極め、9レコードで輸入車へも進出した株式会社アジトが展開する。代表の長谷川 学氏は、劇中車への想いというよりむしろ、フュージョン社が造りあげるハイテック・



当時の雰囲気味わいながら
現代的な快適装備を使う

アルミビレットの質感などディテールへのこだわりは並大抵ではない。ボディ補強のためロールケージを張り巡らしながらもアルカンタラを巻いて目立たなくしたり、統一感のあるレカロシートを装着するなど、全体的にはオリジナルの雰囲気を残しつつも、随所に現代化が図られている。ナビやエアコンも装備される。



エレノアらしい佇まいと
強大なパワーを受け止める

ホイールデザインはオリジナルを再現したもの。センターロックを模しているが実際は5ホールとなる。この個体はフロント245/45R17、リア315/35ZR17サイズのNITTO NT555が組み合わされていた。図太いサウンドを奏でるエキゾーストはボディサイドに備わる。エキゾーストシステムもオーダーできる。



フュージョン社のモノ造りに惹かれた
日本のチューニング職人

9recordsおよびAJITTOの代表にして、フュージョン・アジアを立ち上げた長谷川 学氏。映画の中のエレノアはもちろん、フュージョン社が製作するクルマのクオリティに惹かれた。保証体制を含め、ここ日本での普及に尽力する。



Ford Mustang Fastback
“ELEANOR”
by FUSION LUXURY MOTORS



Exterior Details

Color Scheme
PEPPER GREY/BLACK
Wheels | Tires
245/45/17 FRONT | 275/45/17 REAR

Mechanical Details

Engine
ROUSH 427 1RN 8-STACK@560 HP | 540 FT/LBS TORQUE
Transmission
TREMEC MANUAL FIVE SPEED W/HYDRAULIC CLUTCH
Driveshaft
ALUMINUM
Differential
FORD 9" REAR W/POSITIVE TRACTION
Steering
RACK AND PINION POWER STEERING
TILT COLUMN
Brakes
13"-6 PISTON [BLACK]
Cooling
CUSTOM 31" ALUMINUM RADIATOR W/TWIN SPAL FANS
Fuel
STAINLESS STEEL FUEL TANK
Chassis
POWDERCOATED FRAME/BODY
SUB-FRAME CONNECTORS
COSMETIC ROLL BAR
Suspension
COILOVER FRONT SUSPENSION
Billet Hinges
BILLET ALUMINUM HOOD HINGES
BILLET ALUMINUM TRUNK HINGES
Exhaust
STAINLESS STEEL EXHAUST
STAINLESS STEEL HEADERS
Insulation
STANDARD UNDERCOAT

Interior Details

Cauge Package
WHITE GAUGES
Door Panels | Rear Panel | Headliner | Dash | Trim
DELUXE LEATHER PACKAGE
Seats
RECARO HIGH BACK BUCKET
Seatbelts
4-POINT HARNESS
Heat/Air
VINTAGE AIR MAGNUM IV AC
Security
POWER LOCKS
POWER WINDOWS
Sound/Navigation
PREMIUM SOUND W/NAVIGATION "MUST PURCHASE CENTER CONSOLE"
Additional Options
CENTER CONSOLE
FIRE EXTINGUISHER



Ford Mustang Fastback
"ELEANOR"
by FUSION LUXURY MOTORS



パワーユニットから装備品まで すべて自分仕様にオーダーできる

この個体に搭載されるエンジンはROUSH製の「427 1RN 8-STACK」。他にROUSH製の5.0 COYOTE V8や427 SRXE 750psのスーパーチャージャー付きなどから選べる。ヒンジなど細部に宿るビレットの質感は特筆モノ。トランクにはさりげなくウーファーが仕込まれているほか、NOSが設置される。現状ではダミーだが実装することが可能だ。こうした装備をイチからオーダーできる。通常は製作期間8ヶ月だが、現在は1年半ほどかかるとか。それでも一生モノとして考えれば些細な時間。じっくり待つ楽しみがある。



カスタムの、そのクオリティに魅了されたという。「これだけ高品質で、芸が細かいことに驚いた。単にエレノアを模しただけでなく、絶妙な塩梅で現代化される点もいい」このエレノアは、映画に心酔した人が多くを犠牲にして乗る類ではない。むしろ映画のことを何も知らなくても、卓越したアメリカンビルダーのモノ造りに触れ、その高性能を心底から味わうことのできるクルマだ。フュージョン・アジアの尽力により、ここ日本でも子細なオーダーをしたうえでエレノアを注文することができる。この個体

よりさらにハイパフォーマンスなスーパーチャージャー付きを選んでもいい。彼らを通してフュージョン社がドンガラボディから造ってくれる。価格は仕様にもよるが、3000〜4000万円程度だろう。欧州製スーパースポーツ以上の存在感と、長きにわたって価値が宿る可能性が高いことを考えると、さして高額ではないと思える。

エレノアを劇中だけに留めず、正式な手続きを経たうえで現代に甦らせた。これからは劇中のみならず、リアルワールドで疾走する姿を見て憧れを抱く人まで出てきそう。フュージョン社がいる限り、エレノア物語はまだ終わりそうもない。